

-日商簿記3級検定試験-

第1問(仕訳)項目別対策

#1

～今回の対策項目～

- ・ 現金預金
- ・ 小口現金
- ・ 現金過不足



解説動画URL



第1問(仕訳)項目別対策

<日商簿記3級検定試験について>

- ・試験時間：60分
- ・合格点：70点以上

	第1問【仕訳問題】	第2問【その他】	第3問【決算関連】
主な出題内容	現金預金 商品売買 貸付金・借入金(利息の計算) 仮払金・仮受金 固定資産(購入・売却等) 訂正仕訳 消費税・法人税 株式会社会計 決算整理・決算振替 剰余金の処分・配当 伝票の推定 証ひょうの読取り	勘定記入(T字勘定) 補助簿の選択 理論問題(語句穴埋め) 伝票(伝票の記入) 伝票(仕訳日計表) 商品有高帳 固定資産台帳	精算表の作成 損益計算書・貸借対照表の作成 決算整理後残高試算表の作成
配点	45点(3点×15問)	20点	35点
おすすめの解答手順	①(15分)	③(15分)	②(25分)
ポイント	ここで確実に高得点を! 目標は13問(39点)以上	初見で「難しい!!」と思わず冷静に! 確実に取れるところから部分点を!	時間を意識しつつ高得点を! 貸借の合計が一致しなかった時は 「必殺後回し!!」で次に進むこと!

第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題1》

商品5,000円を販売し、代金のうち2,000円は送金小切手、1,000円は郵便為替証書を受け取り、残額は掛けとした。

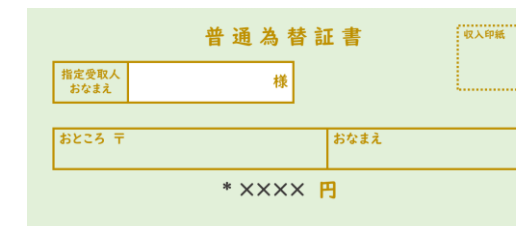
○用語○

送金小切手…銀行に発行してもらう小切手

※発行するには手数料が必要

郵便為替証書…郵便局に発行してもらう証書

※発行するには手数料が必要



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題2》

商品3,000円を仕入れ、代金のうち2,000円は、かねて受け取っていた得意先A社振り出しの小切手を手渡し、残額は掛けとした。



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題3》

商品10,000円を販売し、代金は当社振り出しの小切手を受け取った。

○用語○

自己振出小切手…自分(当社)が振り出した小切手



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題4》

定期預金1,000,000円が本日満期となり、利息2,000円とともに普通預金口座へ振り替えられた。

○用語○

満期…契約等が一定の期間を経て終了した時点



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題5》

銀行で当座預金口座を開設し、100,000円を普通預金口座から当座預金口座へ振替えた。また、小切手帳の交付にかかる手数料2,000円を現金で支払った。

○用語○

小切手帳…小切手を発行する(振り出す)のに必要な冊子



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題6》

A銀行の当座預金口座から5,000円をB銀行の普通預金口座へ振り込んだ。その際、振込手数料500円がA銀行の当座預金口座から差し引かれた。なお、当社は複数の金融機関を利用しており、管理のために口座ごとに勘定を設定している。



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題7》

会計係は小口現金係から、次のとおり支払額の報告を受け、ただちに、同額の小切手を振り出して補給した。なお、当社は定額資金前渡制度(インプレスト・システム)を採用している。

ノート代:100円、バス代:800円、電車代:500円、
郵便切手代:1,200円

✓小口現金で扱う主な勘定科目✓

消耗品費…ノート代、ペン代、用紙代等
旅費交通費…電車代、バス代、タクシー代
通信費…切手代、ハガキ代、電話代等
水道光熱費…水道代、電気代、ガス代等
雑費…上記以外の少額のもの

○用語○

定額資金前渡制度(インプレスト・システム)

…事前に一定額を渡し、使った分の金額を補給する方法

<定額資金前渡制度の流れ>



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題8》

月末に金庫を実査したところ、紙幣・硬貨38,000円、得意先振り出しの小切手10,000円、得意先振り出しの約束手形8,000円、送金小切手5,000円、郵便切手2,500円、収入印紙1,500円が保管されていたが、現金出納帳の残高は50,000円であった。不一致の原因はすぐに判明しなかったため、現金過不足勘定として処理する。

○用語○

実査…実際有高を確認するための手続き(作業)

●Point●

仕訳を行う際は、実際有高に合うように帳簿残高の金額を調整する。

第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題9》

決算整理前残高試算表には、現金過不足の貸方残高3,000円が記載されている。
決算日において、このうち2,000円は受取手数料の記入漏れであることが判明したが、
残額については原因不明のため、雑損もしくは雑益として処理することにした。

借方	前T/B	貸方
	現金過不足	3,000

●Point●

現金過不足勘定は、一時的に不明な差額を記録するだけの()という特殊な勘定である。
そのため、決算手続きにおいて原因が判明しない場合でも、この勘定科目を残すことはない(必ずゼロにする)。

第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題10》

決算日における現金の帳簿残高は3,000円であるが、実際有高は2,600円であった。この差額のうち、300円は「水道光熱費」の記入漏れであることが判明したが、残額は原因不明のため雑損もしくは雑益として処理する。

●Point●

- ・仕訳を行う際は、実際有高に合うように帳簿残高の金額を調整する。
- ・決算手続きにおいて現金の帳簿残高と実際有高に差額が生じた場合は、「現金過不足」勘定を使用せず、直接「現金」勘定から振替えの処理を行う。現金過不足を用いるのは期中において差額が生じた時のみ。